

## 第5回白馬村学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 日時 令和3年7月30日(金)  
開会 午後2時00分 閉会 午後3時31分
- 2 会場 白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階 学習室
- 3 出席者 委員 高野美海子(保護者代表)  
委員 徳武 信一(保護者代表)  
委員 吉沢 一夫(学校関係者)  
委員 松下 設吉(学校関係者)  
委員 浅原 昭久(学校関係者)  
委員 清水 蛍(公募委員)  
委員 塩島 弘之(学識経験者)  
委員 窪田徳右衛門(学識経験者)

説明者等 教育課長 横川 辰彦  
教育係長 中村 由加

- 4 提案 具体的な提言の柱について

- 5 協議 グループ協議  
①進め方について  
②協議  
③発表

### 6 議事の概要

#### ○開会(教育課長)

只今から第5回学校のあり方検討委員会を開会する。  
委員長、ご挨拶とその後の進行をお願いします。

#### ○委員長挨拶(塩島委員長)

こんにちは。この7月17日に北小・南小の学校参観を行った。子どもたちの勉強している様子や校舎の老朽化等を見学させていただき、貴重な時間だった。両校の先生方に感謝申し上げます。

本日は、初めにこれからの検討委員会のスケジュールについて、見通しを立てるために説明さ

せていただく。11月には教育委員会に答申を行う予定であることから、10月には答申書の最終確認をしたい。そうすると、8月の委員会で答申の柱になるものについて検討を深めていただき、9月には答申の原案について協議していただく見通しでいる。ついで、第1回の委員会の折に示されたスケジュールにおいて保護者アンケートの実施が記載されていたと思うが、これまでの協議の中でアンケートを要望するような流れにはなっていないので、この委員会では保護者アンケート調査を扱わない方向で行きたいと思うがいかがか。

(A 委員)

学校は子どものための場所なので、学校の話をしていて子どもの意見を一切聞かずに進めていくことに違和感がある。

(塩島委員長)

アンケート調査をした方がよいということか。

(A 委員)

方法はアンケートが一番簡単なように思う。大人が考える「こうあってほしいと思う学校」と、子どもが考える「こうあってほしいと思う学校」は差があると思うので、子どもの意見も聞くべきではないかと感じている。この委員会でアンケートを実施しなくても教育委員会が実施するというのであればそれで良い。

(塩島委員長)

何らかの方法で子どもの意見を吸い上げてもらいたいという意見が A 委員から出されたが、皆さんいかがか。

(B 委員)

アンケートを取ること自体はスムーズにできると思う。場合によってはタブレットを使えば数分でできる。ただ、質問内容をどうするかは考えなくてはならない。子どもの意見を聞くことは良いことだと思う。

(塩島委員長)

では、この後、前回同様に少人数に分かれてグループ協議をしていただく予定なので、子どもに質問してみたい事項についてもざっくばらんに話し合っ提案してもらおうのはどうか。

(A 委員)

それで良いが、この委員会の終着点がよくわからない。答申の仕方はどのような形になるのか、例えば理念やスローガンを出してその他に具体的なことについて幾つか示すようになるのか、それがわからないからどんな質問をしてよいかわからない。

(塩島委員長)

では、今日やることを一通り説明して、その後もう1回どうするのかご意見を伺いたい。

○説明

(塩島委員長)

本日の協議内容について資料を見ていただきたい。一、これからの「望ましい学校の姿」ということで、「少人数なりのよさを生かした魅力ある学校づくり」と記載した。前回の話し合いで、少人数が問題だということ強調しすぎない方向が良いというご意見をいただいたので、「少人数なりのよさを生かした」という表現にした。今後の協議の中で新たに加えたり修正していただければと思う。1～4は前回のとおりである。

二、具体的提言の柱であるが、答申に向けた具体的な方向性について、これまで出た意見をもとに3つ挙げている。前回までの話し合いの中から考えられそうなものということでピックアップしている。これ以外にも意見や提案があれば加えたり、修正してもらいたい。

また、この3つの柱の背景にあるものとして、白馬には色々な潜在能力があるという皆さんのご意見から「白馬村の力を生かした未来志向の教育を」という見出しをつけてみた。

提言内容の1つ目は「白馬ならではの特色ある学習」を進めていくことである。①英語学習の充実として、全ての子どもたちが簡単な日常会話ができる力を養うことや、白馬の地域特性を生かす英語特区申請の方向も考えられること、②ICT教育の進展として、ICT教育によって色々な学びができるようになることから共同的な学びや外部との交流を進めること、白馬ならではの様々な地域から来ている人材、産業、施設等の潜在的にある力を生かして先進的な取り組みを行うこと、③スキー学習として、白馬の伝統的なスキー文化を継承していくこと、を取り上げた。

2つ目は「学校と地域の連携や共同」である。①コミュニティ・スクールを更に進めていくこと、②スポーツ・歴史文化・自然・産業や社会生活を通して学びや誇りを身に着けることが大事であること、③学校もまた地域に協力してお互いにWin-Winの関係を築いていけるようにすること、を取り上げた。

3つ目は「施設設備の整備・改善」である。①老朽化が進んだ施設の改善、②時代の要請に対応した情報機器の導入ということで、先日小学校を見学していただいたので、またその感想も意見として出していただければと思う。③安心安全な学校環境とは、これまでの話し合いの中で通学路の安全等の意見もあったので、施設面だけでなく角度からの提案もあればということで挙げた。

これまで少子化に視点を絞って話し合いをしているので、提言内容については分野的には絞られていると思うが、この3つの提言内容以外に大事だと思う点があれば加えていきたい。この後グループ分けしたところで、これらの提言内容をきっかけに話を深めてもらいたい。

(C委員)

少子化と校舎の老朽化で、この前も少し意見が出されたが必ず統合の問題が出てくると思う。この委員会では統合について話し合わなくても良いと聞いているが、答申が出た後に統合問題について検討する委員会が別にできるのか。その辺の見通しについて伺いたい。

(教育課長)

この委員会において、学校環境のあり方や地域と学校づくりのあり方等について、こういったことが望ましいとかこういったことが問題点としてあるといったことを答申していただいた後、教育委員会において基本方針を定めていく予定である。基本方針を定めるにあたって教育委員会において統合問題について検討し、教育委員会として保護者や児童・生徒の意見を吸い上げて、基本計画や基本方針を作っていかなければならないと考えている。ただ、今回のあり方検討委員会の中では、統合の話をしてはいけないということではない。もちろん、統合の話をしていただいた中で、その可能性や問題点等について提言していただきたい。

(塩島委員長)

資料の提言の柱では統合について取り上げていないが、挙げていただいて結構である。他に意見は。

(A 委員)

今話を伺うと、こういうあり方であるべきと提言するよりは、2校であった場合の良い点や問題点、統合して1校であった場合の良い点や悪い点、というように方策について幾つか考えられることを提言した方が、後々使いやすいように感じる。まとめるというよりは沢山出ている方が良いのではないか。

(教育課長)

おっしゃるとおりである。結論は求めている。あり方について幅広く総合的に問題を検討し提言していただいたことを、今度は教育委員会が、建物については財政係と協議したりするが、取捨選択の材料としたいと考えている。

(塩島委員長)

この委員会の目的も色々な意見を出していただき、それを整理して村民の皆さんに考えていただく資料提供の役割もあると思うのでおっしゃるとおりだと思う。統合の問題についても、この後のグループ協議の中で話し合っていたいただきたい。今回全部扱うのは難しいということであれば、次回に集中して行なうこともできる。そんな方向で進めていってよろしいか。

(D 委員)

統合もそうだが、前回、小中一貫校の話も出た。例えば池田町の場合は、学校が違うが小中一貫というシステムをとっていて、小学校で専科の先生がいない場合に中学校から借りることができるということを聞いた。そういうシステム等について自分は知らなかったので、小中一貫校に関するお話も今回伺った上で、検討の材料に入れたらどうかと思う。

(塩島委員長)

では、具体的提言の柱のその他に「小中一貫教育」も加えて協議することとしたい。小中一貫教育についてまだ馴染みのない方もいると思うが、グループの中に先生方もいるので、大北の状

況を伺ったり、メリット・デメリットについて話し合う中で考えていければと思う。

グループ協議の中で、今いったすべての提言内容について扱わなくて良い。内容を絞って重点的に扱ってもらっても良いし、わからないところを聞き合うようなことでも構わないので、発言を気楽に出し合ってもらいたい。そんなことで進めていきたいがよろしいか。

## ○協 議

### ①進め方について

(塩島委員長)

今日はAグループとBグループに分かれて協議していただく。テーマは2グループとも同じで提言の柱について。進行役は決めないが、話し合ったことをまとめる役は決めていただき、最後に発表してもらいたい。

### ②グループ協議

Aグループ：松下委員、浅原委員、窪田委員、高野委員

Bグループ：吉沢委員、徳武委員、清水委員、塩島委員長

各グループに分かれて、持ち時間45分でテーマについて話し合う。

### ③発表

(塩島委員長)

時間になったので、各グループで出された意見の発表をお願いします。

## Aグループ

(B委員)

最初にE委員から新聞の切り抜き記事を3種類提示いただき、話を切り出していただいた。一つ目は、来年度から小中学校で特例校ということで、授業時間数を学校の裁量で変更できる新制度を導入するというもの。二つ目はデジタル教科書に関する切り抜き、三つ目は白馬中が関係しているがオンライン授業に関する切り抜きで、初めの話題になった。そんな中で、やはり特色のある学校としていくことが大事であるという意見が出された。特色ある学習として例えば英語学習であれば何が必要かを考えた場合に、教材や人材やシステム等を具体的に用意していくことが必要であり、中学校で留学やホームステイが可能である、または小学校で日常会話ができるといった具体的な学習環境を整えることが重要であるという意見が出された。そんな中で人と関わりながら生き方を学ぶという話がされた。

他にコミュニティ・スクールやICT教育についても話し合ったが、やはり施設が老朽化しているので安全面も含めて新しい校舎がほしいという話になり、統合に関わる意見も出された。小学校が1校であれ2校であれ特色をはっきりさせていくことや、通学区を見直す中で2校を維持していくことも大事であるという意見があった。また、八坂村の小学校と中学校が分離型の一貫校にされるということがあるので校舎が別でも一貫的である形、あるいは池田町のように保小中の一貫教育という形から、分離型の一貫校という形をとるべきなのかどうなのかとい

う話が出た。どのような形にしても白馬村は多様であることが特色なので、統合するしないにかかわらず学校の特色をはっきりと打ち出していくことが重要であると思われる。理想とすると、中間的な地区に1校新設して一緒に学び合うというのも良いだろうし、神城地区の地域のより所として是非学校を残したいという意見も出された。

## B グループ

### (F 委員)

まず最初に子どもたちへのアンケートの実施については、今の段階で実施するのではなく、答申が固まってから答申内容に沿った設問でアンケートを実施するほうが役立つという意見であった。設問項目については検討する必要があるし、保護者に聞くのであれば、地域の声も聞く必要があるのではという意見が出された。

小中一貫校について、塩島委員長から伺ったところ、美麻小中は色々な経緯を経て、現在は義務教育学校として1年から9年生という形で1つの学校になっているとのこと。また、八坂のように小学校と中学校が離れているが、分離型の一貫校を目指す学校も出てきているようである。東京の小中一貫校の話題にもなったが、東京の小中一貫校は学力向上を前提としたイメージが強いという話であった。

学校と地域の連携については、様々な災害の発生を考えた時に地域の避難所として建物を確保する必要はあり、学校がなくなると地域が廃れてしまう心配があるという話があった。一時期コミュニティ・スクールの関係で盛り上がってきた地域と学校の関係が、今はコロナによって薄くなってしまった状況にあるが、南小の運動会に保護者が参加する伝統や、小笠原の島民全員参加の運動会が盛り上がったという話が出た。

学校施設については、やはり北小も南小も教室の古さは気になる、出口が一つしかない教室や、職員室から離れている教室で果たして子どもの安全を守れるのかという意見があった。

最後に、白馬ならではの特色ある学習については、スキー学習の場合は白馬の伝統ではあるが賛成もあれば反対もあり色々な立場の意見を聞いていくことが大事であるという意見があった。また、学校の魅力づくりという点では学校ごとの特色を出すことが重要であり、場合によっては通学区を廃止して、学校の特色に合わせて小学校を選べるようにしたらどうかという意見があった。

英語特区として英語学習に力を入れていくことは白馬の環境からすれば良いと思うが、基本的な物の考え方の言語として日本語をきちんと学習することも重要であり、それに合わせて英語をいつ頃から教えるべきなのかという問題もあるという話になった。

### (塩島委員長)

活発な意見交換がなされたようだ。今日出された意見を整理して、次回の委員会において全体でさらに話し合う中で深めていけたらと思う。特に統合問題については、メリット・デメリットをはっきりさせて整理していくことが大事ではないかというご意見もあったので、その点についても次回の全体で話し合っていきたい。また、子どもへのアンケートについては、答申内容がある程度固まらなないと質問内容が決められないという意見もあった。すべての子どもたちにアンケートができるかという話もあるが、次回の会議までに副委員長や教育委員会と打ち

合わせして、答申の内容をもう少し詰めていきたいと思う。そのような流れで皆さんよろしいか。

(委員の賛同あり) よろしく願います。

○閉 会